

ATTAC 京都 七月定例会

グローバルリズムと構造改革

～ 痛むのは誰？・・・子会社に隠される悲鳴～



講師：島本慈子さん（ノンフィクションライター）

「月刊奈良」、「読売ライフ」編集部を経てノンフィクションライター。著書に「砂時計の中で - 薬害エイズ・大阪 HIV 訴訟全記録」（河出書房新社）、「倒壊 - 大震災で住宅ローンはどうなったか」（筑摩書房）があり、その綿密な取材には定評がある。今回は“構造改革”が働く人々に何をもちたらしつつあるのかを扱った最新刊「子会社は叫ぶ-この国でいま、起きていること」（筑摩書房）の取材の過程で、ご自身が感じたことなどを中心にお話をさせていただきます。

日時：7月20日 19:00 開演（開場 18:30）

場所：キャンパスプラザ京都（京都中央郵便局隣）
4F 第4講義室

参加費：¥300±（個人の事情に応じた任意の額）



連絡先：小森政孝（ATTAC 京都事務局）京都市左京区田中上古川町 8 高野マンション 206 号 Tel/Fax:075-706-3875 e-mail:saisei@mte.biglobe.ne.jp



The world is not for sale!

「世界は売り物じゃない！」

「市場にまかせればすべてうまくいく」という市場万能主義的・新自由主義的な経済のグローバル化。しかしそれはあらゆるものを売買の対象とし、世界規模での経済競争を推し進めようということにほかなりません。このグローバル化によって、貧困や環境破壊、社会福祉の後退、労働条件の悪化などの諸問題がますます引き起こされています。これらの公正な解決をめざして、1998年にフランスで生まれたNGOがATTACです。

為替取引に0.1%の税金(為替取引税または提唱した経済学者の名から「トービン税」と呼ばれます)をかけることによって、1997年のアジア通貨危機のような破局をしばしばもたらず投機的金融取引を抑制することができます。同時にその税込、年間約1600億ドルを世界中の貧困対策に振りむければ、そのために必要な金額を十分満たすことができるのです。

現在フランスでは、会員は3万人近くに達し、全国の自治体も数多く参加しています。これと並んで世界40カ国以上でATTACが生まれ、「金融界の利益のために民主主義が失った空間をとりもどそう」「もう一つの世界は可能だ」をスローガンに、先進国と途上国の垣根を越えて活動する国際的なネットワークをつくりあげています。

ATTAC京都 誕生

ATTAC京都は、このような世界のATTACの活動に共鳴した京都近隣の市民有志が、ついこの間、5月のはじめに設立したものです。2001年秋に設立されたATTAC関西、ATTAC Japan(首都圏)に次ぐ日本では3番目のグループです。

ATTAC運動の直接の目的は国際為替取引に課税することですが、日常の実践としては相互に問題意識をもちよって勉強や討論をすることを大切にするのがATTACの持ち味です。

また、同時にそれぞれの取り組みや経験を披

露して交流する場として機能することも目指したいと考えています。5/9のATTAC京都設立集会に集まった人々は、市民運動家はもちろん、ジャーナリスト、研究者もいれば、ミュージシャン、フリーター、失業者、主婦の方もいました。こうした多様なあつまりであればこそ、それぞれの視点から経済のグローバル化の影響を浮き彫りにしていくことができるはず。

そして、なにかアクションを起こすときは、「この指とまれ方式」で、集まった人たちが実行するという形をとります。全体を画一的に一致させるのではなく、それぞれの考え方や行動のスタイルの違いを生かし、さらにお互いにぶつけ合うことで新しいものを生み出すのがねらいです。

**さあ、もう一つの世界は可能
(Another world is possible!)です。
ATTAC運動を一緒に創りませんか？**

* 集会はどなたでも参加可能です。一度覗いててみたいという方、ぜひお越しください。